

信者ではないが『旧約聖書』を歴史物語として愛読している。その「出エジプト記」に一〇の災害が記載されており、家畜の疫病が登場する。同書は紀元前一三世紀の成立とされているが、ウイルスははるか以前から存在するから、疫病は人類の長年の難題であったことになる。今回は氾濫する疫病の話題は回避し、一〇の災害にも登場する蝗害を紹介したい。

蝗害はバッタの異常繁殖による作物の被害であり、中国では紀元前一七世紀の殷代の記録を最古として、頻繁に史書に登場する歴史のある災害である。ノーベル文学賞を受賞したP・バックの長編小説『大地』にも清朝末期の中国での蝗害の壮絶な情景が紹介されているように、社会にもたらす被害は尋常ではない。中国では蝗害は水害、旱魃とともに三大災害とされてきた。実際に秦・漢の時代には平均して八年に一回、北宋・南宋時代には四年に一回程度で発生している。バッタを意味する「蝗」は「虫」と「皇」を合成了た文字であるが、皇帝の命運を左右する昆虫の意味を表現しており、実際に王朝の存亡を左右する影響があったとされる。

今年の年頭からエチオピアを中心とするアフリカ東部でサバクトビバッタが異常繁殖し、周辺地域に拡大するとともにアラビア半島を横断してパキスタンに到達、現在では北東の方角の中国西部に移動していると推測されている。その数量は数千億匹と推定され、一日で三万五〇〇〇人分の作物を消滅させていくといわれる。

国連食糧農業期間は、このまま進展していけば、世界の二〇〇万人が食料危機に直面すると警告している。それは食糧を生産している地域だけではなく、日本のように六割以上の食糧を輸入に依存している国家にとっても脅威である。新型コロナウイルスを鎮静すれば、背後には食糧危機が待機しているという厄介な時代である。

これは一見、自然災害のようであるが人為災害である。前回の拙稿でも説明したように、疫病の蔓延も人間移動の増加、自然環境の開拓、大気温度の上昇など人間の活動の影響で変化した自然環境がウイルスの出現や蔓延の原因であるように、蝗害も人間の活動の拡大によって出現したと理解すべきである。

現在、世界の陸地の三割に相当する四〇億畝は森林であるが、わずか一万年前には陸地の半分の六二億畝が森林であった。大半は人間が手中にした農業と牧畜のための土地を確保するために伐採された結果である。最近の減少比率が継続すれば、数百年後には森林は丸裸になる趨勢であり、蝗害も尻込みするほどの人害である。

自然を蚕食していく人害はこれだけではない。主要な金属資源の大半は数十年後には新規の採掘ができなくなり、生物資源も哺乳動物の二〇%、両生動物の三〇%を消滅させてきた。細菌もウイルスも宿主が滅亡すれば、自身の滅亡に直結するから加減をするが、人間は加減もせず宿主である自然を消滅させつつある。

太陽を遮蔽するほどに上空を飛翔するバッタの大群の写真は恐怖をもたらすが、その背後には無数の生物の一種でしかない人間の大量が投影されていると理解する必要がある。肉食動物は草食動物を絶滅させず、細菌もウイルスも宿主となる生物を絶滅させない。ただ人間のみが例外である。連続する天災を人間と自然環境の関係を認識する好機とすべきである。